

**外交・安全保障調査研究事業費補助金
補助事業実績報告書**

※本報告書のほか、事業成果をアピールする資料（パワーポイントや動画等自由書式。最大3枚/3分程度）を提出すること。

（※当該資料は、単なる活動報告にしないこと。事業の新規性、研究成果によって得られた新たな知見及びそれに基づく政府へのアウトプット・提言等、事業成果について記載すること。）

1. 基本情報	
事業者名 東京大学先端科学技術研究センター	
事業区分・テーマ	※事業区分（発展型総合事業・総合事業・調査研究事業）及びテーマを記載。 発展型総合事業「国際理念と秩序の潮流:日本の安全保障戦略の課題」 国際理念と秩序の潮流：日本の安全保障戦略の課題
事業名及び事業概要	※事業計画書の該当部分を転載。 秩序観を掲げる勢力が競合する「体制間競争」が激化している中で、日本の国際的立ち位置と、対外的に打ち出す理念を構想する。安全保障・外交戦略、政治体制、政治思想、宗教思想等を中心に、日本が直面している諸問題、そして日本が取るべき選択肢とその発信について議論、シミュレーションを行い、政策提言に繋げる。
事業実施期間	※下記の期間から1つを選択し「○」を記入 () 1年間 (年度) () 2年間 (年度～ 年度) (うち 年目) (○) 3年間 (令和5年度～8年度) (うち 3 年目)

2 事業の成果（アウトカム）

評価要綱3の項目につき、以下①、②の自己評価を記載すること（分量は自由）。

（※ 活動実績の詳細や定量的実績は下記「3－1」～「4－2」の欄に記載すること。）

① どのように取り組み、どのような成果があったか（工夫を凝らした点、前年度の事業から改善した点を含む）。

② どの部分につき進展・成果が不十分であったか。その原因、次年度での改善方法。

（1）補助事業の成果

（基礎的情報収集・調査研究（外交に資する政策志向の研究とし、政策提言を含む。）

- 他の類似事業と比べて新規性があったか。研究成果により新たな知見が得られたか。また、外交に資する政策志向の研究がなされたか。

本事業では、今後の国際秩序を方向づける理念を日本から発信するために、外交・安全保障政策とその基礎となる思想の専門家・実務家の人的・知的ネットワークを東大先端研が結節点となって形成することを目指した。そのためにトラック 2/1.5 の国際会議や国際セミナー・戦略対話を多数開催した。特筆されるのは、戦略的に重要な国・地域への訪問団の派遣と、それらの地域からの訪問団の受け入れによる、多数の政策対話の実現であり、その定例化である。

2025 年度は、3 ヶ年度にわたって開催してきた、戦略的な重要国・地域との国際会議の開催の定例化の締めくくりの年であり、次の段階での拡大・定着を目指すための基礎づくりの年となった。本事業における国際会議の開催の嚆矢は 2023 年 9 月 24—26 日にトルコ・イスタンブールおよびアンカラに派遣した訪問団である。この訪問団はトルコの代表的な外交・安全保障・地域研究シンクタンクに包括的・網羅的に訪問を行い、そこに集まる安全保障研究者・政策実務者と政策対話を行った。現地シンクタンク・大学を訪問するだけでなく、東大先端研 ROLES 主催の講演会・シンポジウム・国際会議を現地で開催し、現地の最有力の研究者を多く集め、日本大使館・日本総領事館の大使・総領事・大使館員の多くの参加も得て、研究者と実務家、大学・シンクタンクと日本政府機関との関係構築の橋渡しを行なった。イスタンブールでは公開講演会「帝国の後に：戦間期の中国・トルコ・テュルク世界と日本」、公開シンポジウム「ウクライナ戦争の挑戦」を、アンカラで国際会議（招待制）「日本・トルコ戦略対話」を開催した。イスタンブールおよびアンカラへの訪問団派遣による政策対話と国際会議・シンポジウムの開催は、本事業全体のトラック II 会議のモデルとなった。

2023 年 10 月 7 日のハマースによるイスラエル領土への越境攻撃をきっかけに激変・流動化した中東情勢と、中東をめぐる国際政治の急展開、それによって加速されたグローバルな国際秩序の変動を、現場に近いところで情報収集し分析し、日本からの発信を行うため、本事業はアンマンにプラットフォームの構築を急ぎ行った。2024 年 5 月 12・13 日には、ヨルダン・アンマンでヨルダン大学戦略研究センター（CSS）との共催で開催した「第 1 回日本・中東戦略対話」では、ガザ紛争をめぐって流動化した中東地域秩序の再編成に日本が積極的に関与していくためのプラットフォームを形成した。

このプラットフォームの主要メンバーは、本事業の 3 年度目である 2025 年に活発に分析と政策対話の会合を開き、日本に通常は伝わることのない現地の地域国際政治、そして米国等主要な大国・有

力国による中東への関与の実態をリアルタイムに分析し続けた。2025 年 6 月のイスラエル・イランの「12 日間戦争」に即応し、2025 年 7 月 29 日に中東諸国から最先端の実践的な安全保障専門家・実務家がアンマンに集まり非公開で行う「第 1 回アカバ安全保障・戦略フォーラム」を開催した。ここでの参加者が中心となり、2025 年 11 月 19・20 日にアンマンに「第 2 回日本・中東戦略対話」を招集し、中東各国の首脳の前任の外交問題補佐官や元閣僚を多く含む参加者が、中東の現地において安全保障の現状と課題をめぐる最新の知見を共有し、日本の立場を発信する場を確立した。

また、日本がエネルギー安全保障を依存する中東の湾岸アラブ産油国との政策対話のプラットフォームの形成と定着を重点的に行なった。その発端は 2024 年 9 月 18・19 日に東大先端研のキャンパスにアラブ首長国連邦（UAE）のシンクタンク TRENDS の年次大会を誘致して開催した国際会議「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」である。ここでは AI やロボティクス等の先端科学技術の発展が外交・安全保障に及ぼす影響を議論し、日本の代表的な AI 研究者が、湾岸産油国や米・欧や南アフリカなどの G7 諸国とグローバルサウスの双方から来訪した有力な専門家と議論する場を形成した。2025 年度には、UAE の TRENDS との協力関係の制度化を進めた。多くの相互訪問を経て、2025 年 12 月 16 日には UAE アブダビの TRENDS 本部でシンポジウム「打開への青写真：人工知能と宇宙を巡る日本と UAE の協力」を、在 UAE 日本国大使館の共催を得て実施した。

さらに、ユーラシアにおける中・露の勢力圏の間で独自の存在を保つモンゴルに着目し、複数のシンクタンクとの関係構築を行い、多くの国際セミナー・ワークショップを開催した。その中でも特筆されるのが 2025 年 8 月 25・26 日にモンゴル国家安全保障委員会（NSS）の戦略研究所（ISS）との共催で開催した国際会議「ヘルシンキ最終文書採択から 50 年：欧州の経験とアジアの未来」である。ISS との協力関係は定例化し、ISS 主催の年次国際会議「ウランバートル対話」には本事業主体から複数が例年招待される慣例が定着した。また、慶應大学 KCS と連携し、ケンブリッジ大学地政学研究所長や米ワシントン DC ジョーンズ・ホプキンス大学高等国際問題研究所教授らを招いて国際研究集会を東京と京都で開催した。エストニアの国際防衛安全保障センター（ICDS）とは相互往来の関係を定着させ、

2025 年 9 月にはエストニア ICDS に 2024 年に続く第 2 回の訪問団を送り、ロシア・ウクライナ情勢と中国の国際関係をテーマとしたラウンドテーブルを開催した。

本事業による東大先端研 ROLES の活動は、従来の日本の外交・安全保障シンクタンクの活動とは一線を画し、国際環境の変化に即応し、グローバルサウスの台頭する諸機関との関係を新たに構築した。

これらの国際会議事業の企画・実施に際しては、外務省および経済産業省、あるいは国家安全保障局の担当部局との連絡を欠かさず、招聘した要人と、関係する官庁の担当局長・審議官・参事官・課長・室長との議論の場を創出した。日本開催の国際会議・セミナーのために来日した専門家と、外務省・経産省・内閣官房等の中央省庁の幹部・専門家との面談を多く設定すると共に、海外開催の国際会議では駐箚大使や、担当する局長を経験した大使・特使の登壇を実現し、シンクタンクとしての自律性・客観性を維持しつつ日本政府の発信の場を創出している。

① 世界の多様な視点に基づく情報収集・調査研究・国際発信

英語その他の言語を用いた国際研究プロジェクト

本事業は、立脚する視点の多角性と国際性を大きな特色としている。海外での国際会議やワークショップの開催や、東京での国際会議の開催で英語を共通言語として行い、活発に発信を行なった。中でも「紛争解決の理論と実践」では各国の研究者・実務家の原稿を集めた英語の共著論文集を2冊オンラインで刊行した。

ROLES が主導したヨルダンでの「日本・中東戦略対話」「アカバ安全保障・戦略フォーラム」は、日本発の中東をめぐるトラック 2/1.5 の政策協議の場として定着し、各国の知識人や要人の参加を得て、日本が将来に外交・安全保障政策の幅を広げるための手がかりを提供している。

「歴史」と「現在」の往還関係に基づく政策志向の研究

『西側』の論理の検証と再構築」や「日本の価値観外交の検証と再構築」で、歴史研究の手法を取り入れ、現在起こっていること事象を歴史的経緯を踏まえ構造的に捉えることを試みた。

宗教と地域研究に基づく知見の活用

第三に、国際秩序を支える理念の研究という本プロジェクトの趣旨から、研究会「宗教と社会の関係の検証と再構築」を組織し、日本及び世界の宗教的価値観と紛争との関わりという、多くのシンクタンクがカバーしてこなかった側面に取り組んだ。特に中東やバルカン地域の紛争について知見の拡大を図った。

我が国の安全保障課題に関する国際的発信

本事業のこれらの研究会のメンバーが中心になり、東大先端研 ROLES が実施する他の事業と協力して、ヨルダン・アンマンでの日本・中東戦略対話会議や、UAE・Trends との協力で、大規模な国際会議を開催した。

機動的な海外出張による時事的問題についての情報収集と国民の理解促進

日本にとって戦略的な価値の高い国・地域のシンクタンクや研究機関、政府要人や専門家との協議・対話のために、エストニアやハンガリー、あるいはモンゴルといった、ロシアや中国との関係において戦略的に重要な国・地域に機動的に研究者を派遣し、現地の有力機関や政府機関との対話・協議の場を多数設定した。日本の外交・安全保障政策にとって戦略的な価値の高い国・地域と相手先を特定し、国民の理解を促進すると共に、他のシンクタンクや研究機関、政府機関にも、日本として重点を置くべき地域や方向性を示すことができたと自負している。

② 来年度に向けての反省点と対策

本年度は本事業の最終年度であるが、将来に本事業を活かしていくためには、全体としては次のような反省点が指摘できよう。

第一に、研究会を多く設定したため、各研究会の活動にかなりのばらつきがあった。ただし、定例会合が不活発であるように見える研究会のメンバーが、国際会議・国際セミナー等で主要な役割を果たしていることも多く、研究会として定例会合を開いていくことに拘泥するのではなく、国際会議や国際セミナーを中心に企画・運営していく新しい発想が必要である。

第二に、一般の国民に向けて外交・安全保障について理解を促すためには、変化する国際情勢や、国民意識の変化に対応し、さらなる新機軸を打ち出し、政策だけでなく、社会的提言を積極的に行なっていく必要がある。

- 事業テーマ及び補助事業者の企画に基づき、情報収集及び調査研究が的確に行われたか。

① 各研究会の活動を通じた情報収集及び調査研究の着実な実施

本事業の下に設置された各研究会の今年度における活動状況を以下のとおりまとめる。

「安全保障協力体制の構想」

研究会「安全保障協力体制の構想」は、欧州における信頼醸成枠組みである OSCE に繋がった 1975 年のヘルシンキ最終文書から 50 年にあたる 2025 年 8 月に、「アジア版 OSCE」の可能性を検討する大規模な国際会議を開催した。そのために「ウランバートル・ダイアログ」に参加して報告者となり、日本の外交的立場を発信した。

「『西側』の論理の検証と再構築」

研究会「『西側』の論理の検証と再構築」では、国内においてはポピュリズムによる政治・社会の動揺、国際政治においては中国やロシアなどの権威主義国家からの脅威や、いわゆる「グローバル・サウス」と呼ばれる国々による挑戦に直面している「西側」諸国の政治・外交・安全保障のあり方を多角的に検証し、今後の指針を提案することを目的として活動している。慶応義塾大学戦略構想センター（KCS）との共催でイギリスのケンブリッジ大学地政学研究所から著名な研究者を招へいし、国際的なネットワークの構築と、国際的な発信力の強化を行なった。

研究会「紛争解決の理論と実践」

研究会「紛争解決の理論と実践」では、ウクライナ国立工科大学の研究グループと日本の欧州研究者を糾合した日・ウクライナ共同研究プロジェクトを推進し、ロシア・ウクライナ戦争が国際秩序に与える影響について調査研究を行なった。また、南アジアと東アフリカの紛争解決研究に取り組み、紛争解決の理論と実践の現状を地域横断的に分析・評価し、可能な限り政策的含意のある視座を提示できるよう努めた。

研究会「宗教と国際秩序」

日本の宗教伝統や戦争の経験の理解を通じ、世界の他地域、特に多神教地域における宗教や戦後社会の理解を深める活動を行なった。

研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」

主要エネルギー消費国のエネルギー安全保障政策を国際比較することを目的として研究活動を実施した。座長の岩瀬昇氏（エネルギー・アナリスト）の元に日本エネルギー経済研究所、JOGMEC、中東調査会等の若手専門家が集まり、2026 年 2 月 28 日に始まったイラン戦争によるホルムズ海峡の封鎖を受けて、座談会形式の分析を発表するなど、外交・安全保障上の危機に対する即時の対応を行なった。

研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」

本研究会は日本、特に、戦後の日本がいかなる「価値」を重視した対外政策を展開してきたのか、歴史的に検証することを目的としている。戦後日本外交のあゆみを全体として理解するため、通史的な検証のための知見の蓄積をおこなっている。また、大学院在学中の若手研究者を米国に派遣するなど、積極的な若手支援に取り組んだ。

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」では、対外政策における「個人」の役割の意義と限界を歴史的に分析することで、今日へのインプリケーションを導き出す取り組みを行ってきた。本年度は日米関係に引き続き焦点を当て、首脳会談の意義、在日米軍基地をめぐる政治的リーダーシップ、日本の対中政策をめぐる「個人」の役割などを検討した。

② 研究会横断の活動の必要性

本事業では国際会議を共同企画・参加によって随時に実現できたものの、恒常的な研究会同士の相互参加の機会を増やす仕組みが必要である。他にも、成果物として動画を撮影する際に複数の異なった研究会のメンバーが出演することや、国内向けにも複数の研究会による合同シンポジウムを実施するといった取り組みを行うことが最終年度の研究会横断の総合のために効果的だろう。

(機動的かつタイムリーな国内外への発信)

- 海外のシンクタンクの動向も参考に、広報責任者を設置する等の措置を講じて、訴求対象ごとに、発信のタイミング、形式、内容等を工夫し、戦略的な発信に意を用いているか。

① 情報の需要層に応じた複合的な発信

文字メディアの需要層に対する突っ込んだ地域的インテリジェンスの発信

第1年度目に広報責任者に任命したマスコミ出身の国末特任教授を中心として、多角的で即時・大規模な国際展開を行うことができた。「日本・中東政策対話」等の大規模な国際会議を開催した際に、直後に全体の概要と各パネルの趣旨を記事として配信することで、活動報告の即時性が得られた。

多様な文字媒体による発信

従来の「ROLES Report」「ROLES Commentary」「ROLES Sat Analysis」「ROLES Insights」「Conference Papers」「ROLES Working Papers」といった多彩なカテゴリーによるレポート・論文をROLESウェブサイトの

を新たに設けることで、時事問題の分析や解説にとどまらない、より詳細な専門家の議論や考え方、分析枠組みなどを即座に公開できる仕組みを整えた。また、それらは日本語と英語の双方で公開されるようになっている。

海外メディアによる報道

特に中東に関する本事業の主催・共催する大規模な国際会議では、ヨルダン・タイムス等の現地メディアによる報道が行われ、日本の対外発信の一助となった。

② 我が国の外交・安全保障政策に関する国際的発信の不足

日本・中東戦略対話をはじめとする、英語を共通言語とした国際発信が定例化し、英語論文集がオンラインで刊行され、外交・安全保障政策に関する提言の一部が英訳で発信されたものの、日本の立場に関する英語を主とした国際発信は未だ十分ではない。国際会議に付随した論文・コメントリーの発信頻度を高めるなど、対面・口頭でのディスカッションが英語の論考としてテキスト情報に早期に転化し共有されていくための仕組みづくりが必要である。

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、日本の主張・視点の国際社会への発信が機動的・タイムリーかつ積極的なされたか。その結果として国際世論の形成に参画することができたか。

(※活動内容のみではなく、どのような発信が、どのように国際世論の形成への参画につながったかを総括的に記載すること。)

① 事業自体の国際性を活かしたイベント開催と発信

高頻度の国際セミナー・シンポジウムの実施

日本・中東戦略対話やUAEとの安全保障・科学技術をめぐる国際会議は英語を共通言語としているが、それだけでなく、大規模な国際会議に限定されず、本事業の研究会のうちいくつかは平素から英語による国際研究会として実施され、加えて随時公開セミナーやシンポジウムを英語を共通語として開催してきた。在京外交団の対面参加や、オンラインでのウェビナーによって日本の主張・視点の国際社会への発信に効果があったものとする。

英語での刊行物の発行

研究会「紛争解決の理論と実践」では成果を英語論文集（オンライン）ROLES Report No. 46: South Asia from the Perspective of Geopolitics and Conflict Resolutionを刊行した。この他にも本事業の枠内では、多数の英語発信が現在進行形の外交・安全保障課題に関係して行われたことは大きな成果と言える。

② メディア・SNS 発信

ROLESが実施している他の事業との比較において、メディア・SNSでの発信が本事業では今ひとつ低調である。ROLESや研究メンバー個人の発信力により、またカウンターパートの海外の研究機関の媒体による発信によって補われているものの、ROLESとしての英語での発信を強化する必要がある。

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、国民の外交・安全保障に関する理解増進に取り組んだか。また、その反響があったか。

(※活動内容のみではなく、どのような活動がどう国民の理解を増進したのか、どのような反響があ

ったかを総括的に記載すること。)

① 活発なインターネット・SNS 発信とメディア・ミックス

機動的な発信と SNS 発信の相乗効果

東大 ROLES は代表・副代表の個人 X アカウントが常時外交・安全保障に関わる情報・議論を活発に提起してきたが、個人的な非公式な発信に頼ることなく、東大 ROLES の公式 X アカウントを運用しており、ROLES ウェブサイトにアップロードされる刊行物や動画、イベントやニュースを逐一広報している。また、その他の研究メンバーの多くも X アカウントを持ち、ROLES 公式アカウントのポストをリポストすることで拡散を図るというサイクルで発信力の強化を図っており、その訴求力・拡散力は非常に大きい。上述した機動的な発信と組み合わせることで、国民の理解増進に貢献しているものと考えている。

一般向けセミナー・シンポジウムの開催と活用

ROLES の活動の多くは一般向けに公開されており、東大先端研のエネオス・ホールやセミナールームに、海外の専門家や要人（チェコ共和国大統領等も講演を開催）が訪れて講演を行い参加者とディスカッションを行うのを、一般聴衆や学生が関心を持ち、気軽に参加することが定着した。

② 発信力のさらなる強化に向けて

ROLES の X におけるフォロワー数は本報告書作成時点で 4994 人であり、前年度から 25%程度の増加率である。公式アカウントを通じた ROLES ウェブサイトの刊行物・動画発信と、成果物の魅力をさらに分かりやすく広報していく。ただし SNS による発信には弊害や限界もあり、SNS のフォロワー獲得や拡散に過度に依存することがない情報発信の新たな経路を開拓し発信していく必要がある。

(外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献)

- 研究過程における外国シンクタンク・有識者等（在日の有識者、外交官、外国メディア関係者を含む）との定期的な討論や共同研究等を通じ、諸外国の視点や海外シンクタンク・有識者等のネットワークを取り入れた調査研究や、日本の立場や見解に関する外国シンクタンク・有識者等による理解の増進に取り組んでいるか。

(※ 活動内容のみではなく、外国シンクタンク・有識者との連携がどれほど、どのように深められたかを総括的に記載すること。)

① 国際的な連携の拡大とトラック 2/1.5 対話のハブとしての地位の確立

シンクタンク間連携

本事業の中核として、海外の主要シンクタンク・研究機関との政策対話や共催国際会議を積極的に行い、国際連携の相手先を多く開拓した。

2/1.5 トラック協議・政策／戦略対話

<日本・中東戦略対話>

2025 年 11 月には「第 2 回日本・中東戦略対話」がアンマン市内のヨルダン大学で開催された。両国のみならずアラブ首長国連邦 (UAE)、トルコ、パレスチナなど中東・アフリカの主要国、欧米、国

連、国際機関からも多数の研究者や政治家、ビジネス関係者、国際機関スタッフや学生ら各界が参加し、ガザ情勢や中東政治の今後、経済協力や投資の可能性、地域の将来像などについての議論が行われた。また、この戦略対話のコアメンバーによる非公開の議論の場である「アカバ安全保障・戦略フォーラム」が2025年7月に発足し、6月に発生したイスラエル・イラン「12日間戦争」といった直近の問題について最新の知見を交換し、外務省等日本政府からの参加者に伝達された。

<モンゴルとのトラック2対話の実施合意>

研究会「安全保障協力体制の構想」のメンバーがウランバートル対話に参加し講演を行い、その主催機関であるモンゴル国家安全保障委員会・戦略研究所（Institute for Strategic Studies, National Security Council, Mongolia）との間において協議を行い、2025年8月に共催で「50 Years Helsinki Final Act: European Experience and Asian Future」を開催した。

② 本年度の成果を活かした成果の着実な刈り取り

最終年度においてトラックIIのネットワーク構築は加速し定着した。本事業の終了後も持続的なプラットフォームとして確立することが今後の課題である。

- G7、安保理常任理事国以外の国のシンクタンクとの意見交換・セミナー実施を通じて、我が国の情勢認識及び外交施策に関する理解増進、並べに我が国にとり望ましい国際世論の醸成に取り組んでいる。

① G7、安保理常任理事国以外の国々に向けた理解増進と国際世論情勢の取り組み

上記してきたように、東大先端研ROLESのシンクタンク・研究機関との対話・協力関係はヨルダンやUAEなど、主にG7や安保理常任理事国以外の国との間で行ってきた独自のものであるが、本年度はこれ以外にも以下のように特筆すべき試みがあった。

モンゴルでのセミナー実施、政府機関・研究機関との意見交換

研究会「安全保障協力体制の構想」では、欧州安全保障協力機構（OSCE）をモデルに、アジアにおいて安全保障協力の機構・体制を構想し提案することを企図し、その鍵となる国としてモンゴルに焦点を当てている。そのために研究会座長他がウランバートル対話に参加し、モンゴル外務省、モンゴル国家安全保障委員会戦略研究所、科学アカデミー国際研究所、コンラート・アデナウアー財団モンゴル支部、モンゴル国立大学法学部、在モンゴル国日本大使館、JICAモンゴル事務所等と関係を深めた上で、2025年8月のアジアにおける安全保障協力体制の構築に向けた国際会議を開催した。

② 諸外国の一般国民に向けた理解増進の取り組みの強化

今後はG7、安保理常任理事国以外の国での活発な国際会議の開催を、専門家に限定されたものだけでなく、一般市民に向けた公開シンポジウムの要素を増やすことで、世界各地の一般世論における日本の存在感や好感度を高めていくことが新たな目標となる。

（2）補助事業の実施体制及び実施方法

- 若手、女性、地方在住研究者を積極的に登用しているか。若手研究者の育成（英語による発信力の強化を含む。）に取り組んでいるか。

① 多様な人材の発掘と育成

若手・地方在住者・女性の登用によるインクルーシブな研究体制の実現

本事業で実施する研究会・研究プロジェクトにおいては、若手・地方在住者・女性を含めることを原則としている。具体的な数値は後述するが、今後とも ROLES の活動の中核としていきたい。

サブユニットを活用した若手研究者間の協力

サブユニット「国際政治とリーダーシップ」ではユニット長の山口航帝京大学専任講師をはじめとして研究メンバーの大部分が若手・中堅世代である。

インターン学生による英語発信機会の提供

これに加えて ROLES ではインターン学生に英語発信の機会を提供した。ROLES の教員の指導の下で学生たちがそれぞれの関心に従って調査研究を行い、ROLES コメンタリーとして発信するという枠組みであり、将来の研究者やグローバル人材を育成する取り組みとして期待される。

② 女性人材のさらなる登用の必要性

本事業に関与する研究メンバー内では、ジェンダー・バランスには大きな問題はないと考えている。しかし、ROLES の専任・特任教員に限ってみると女性が非常に少ないという状況が依然として解決されていない。人事上の問題と関係するために一挙に改善することは難しいとしても、今後の重要な取り組み項目として認識する必要がある。

- 複数の分科会や研究会がある場合、それらの間の有機的な連携が取れているか。単一の分科会・研究会のみの場合は、分散的な個人研究に留まらず、研究者間で連携して調査研究・対外発信が実施されているか。

① 研究会を横断した研究・発信態勢

研究会間の協力による研究の実施

第 1-2 年度目と同様、各研究会の実施に際しては他の研究会にも案内を出し、研究メンバーが横断して研究会に参加できるように図った。そして、ヨルダン・アンマンでの「日本・中東戦略対話」や UAE Trends との共催国際会議のような大規模イベントでは、各研究会から参加者を募って、研究会横断で国際発信が行われるように図った。

研究会『西側』の論理の検証と再検討は、研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」（総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」）との合同で国際会議や研究会を開催した。また、サブユニット「国際政治とリーダーシップ」は、サブユニット「戦後日本政治史検証プロジェクト」（総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」）をはじめとした複数の外交史関連の研究会と合同で研究を進めた。

② 国際会議の開催を目的とした研究会の新たな組織化の構想

本年度において、国際会議の場が複数の研究会を横断した合同研究会合となっていた実質を踏まえ、むしろ国際会議を組織する大きな研究会として再組織化を図ることが建設的・発展的であるとの認識に至り、そのような国際会議の実行委員会や組織委員会としての研究事業の提案と、そのため組織化のあり方を考案し、新規事業として翌年度以降に実施することを提案するに至った。

- 外務省等の関係部局とのコミュニケーションを構築し、政策立案上のニーズを把握し、それを踏まえて効果的にアウトプット・政策提言を行ったか。

ROLES メンバーによる外交・安全保障政策への貢献

ROLES の大きな特徴は、研究メンバーが平素から政府関係者との密接な関係を構築し、我が国に求められる知見を直接的に把握しながら提供していくことが可能な点である。第2年度目においても、ROLES の研究メンバーが持つ知見を我が国の外交・安全保障政策に反映する機会を数多く持つことができた。

- 補助事業者のホームページ上に、研究部門、研究者個人（研究実績、写真、連絡先等）の情報を充実させ、研究内容及び研究者の見える化に努めているか。

① ROLES 事業のウェブサイト展開

ROLES のサイト上では、各事業及びそれらを構成する研究会全てについてのページを設けている。研究メンバーについても同様である。また、成果物を観光したりイベントの実施についての投稿を行う際には、それがどの事業（研究会）であり、誰が参加したのかを管理画面上で選択できるようになっており、選択結果は自動的に各ページに反映される仕組みである。自動化により、各事業の実施状況や成果物の著者を取りこぼしなく可視化することに注意を払っている。

② 英語版の充実の必要性

個人のプロフィールや写真、過去の業績等についてはかなり充実してきたが、英語版のプロフィールページの拡充には、本年度には十分に取り組むことができなかった。本事業の終了後、持続的に展開するには、研究会の数を厳選し、国際会議の開催を念頭においた、会議参加者のウェブサイトとして再整備し、国際会議に関する特設ページでは英語による記載を主として、日本語を従とするような思い切った方策が必要となる。

- 組織自体の外交・安全保障政策に関する政策提言能力及び国際発信力を強化し、国際的な議論の先導に努めているか。（※実施状況のほか、発信がどう国際世論の先導につながったかを記載すること。）

（※総合事業及び調査研究事業については本項目の記載は任意。）

① ROLES 自体の認知度を高める取り組み

パンフレットの制作

組織としての ROLES の認知を図る取り組みを前年度から引き続いて実施し、ROLES の紹介パンフレットを作成して訪問者や面談相手に配布してきた。また、ROLES が東大の一部局による公式のシンク

タンクプロジェクトであることを利用して、東大先端研のウェブサイトや刊行物にもその名前や活動内容を掲載している。

ウェブサイトの改修

ROLES の運営するウェブサイトも、組織的発信の重要な手段である。そこで ROLES では毎年ウェブサイトの改修による高機能化を図っており、2025 年度には日本語ページと英語ページをより効果的に連携するための大規模改修が完成した。それにより、非日本語話者には見づらい仕様であったものが一定程度改善された。

② 単発の試みから定例開催へ

ROLES の研究メンバーによる国際会議・セミナーによるネットワーク構築の試みは、第3年度目において飛躍的に発展し、日本・中東戦略対話などのように、制度化・定例化を果たした。

- グローバルに活躍する若手人材を含む多様なシンクタンク人材の発掘・育成に意を用い、これら人材の国際的な発進力強化に取り組んでいるか。

(※総合事業及び調査研究事業については本項目の記載は任意。)

① 若手人材の発掘・育成と地方連携に関する方針と成果

若手人材を研究者として育てる取り組み

ROLES の若手人材発掘・育成は、当該人材を「研究者として育てる」という原則によって実施されている。インターン制度を実施し、多くの学生に調査研究活動を実地に体験させる機会を設けるとともに、ROLES の予算で東大先端研に特任研究員や特任助教として所属した研究者が、大学・シンクタンク等に転出することで、外交・安全保障の専門家養成の一翼を担った。

活発な地方イベントの実施

「徳之島国際ユースキャンプ」など、地方イベントを活発に実施し、東京に偏ることなく、地方在住の学生や一般市民に対しても外交・安全保障に関する知見を提供し、海外からの訪問団との接点を地方社会に多く提供した。

② 若手による国際発信へのテコ入れ

若手人材の育成の課題として大きいのが、国際発信の依然とした不足である。特任助教・特任研究員クラスの海外の国際会議での登壇や発言、海外でのイベントへの参加等をさらに促す必要がある。専任・特任教員における女性比率の低さは改善されておらず、若手女性人材の育成と国際発信の推進をさらにしていくことが課題となった。

(3) 補助金の使用

- 補助金事業事務処理マニュアルに沿って事業が実施されているか。

① 本事業団体では大学執行部、研究室の研究部門、事務部門にて「補助金事業事務処理マニュアル」を共有し、マニュアルに従った執行がなされている。

②

3-1 事業の実施状況・成果

※以下のカテゴリーに沿って、具体的な実施状況（日時、場所、参加者/参加人数、テーマ、調査、議論や対外発信の概要、成果等）について記載すること。（分量自由）

【発展型総合事業】

- ① 基礎的情報収集・調査研究（外交に資する政策志向の研究とし、政策提言を含む。）
- ② 機動的かつタイムリーな国内外への発信（インターネット等による広報、公開セミナーの開催を含む）
- ③ 外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献（若手人材の参画を含む）
- ④ 国際的な議論を先導するシンポジウムの開催

（1）研究会合の開催

(1)研究会「安全保障協力体制の構想」

1) 第1回会合

【日時】2025年7月9日(水)17:00～18:30

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】16名

高坂博史（名古屋市立大学大学院人間文化研究科グローバル文化コース講師）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学法学部教授）

中村真咲（名古屋経済大学経営学部教授）

益尾知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

桑原尚子（岩手県立大学総合政策学部准教授）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

板橋拓巳（東京大学大学院法学政治学研究科教授）

久場川傳（慶應義塾大学大学院）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

宮脇昇（立命館大学政策科学部政策科学科）

ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語文化学院教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

【概要】

高坂博史氏より「著書『新冷戦をこえて—ヨーロッパデタントから冷戦の終焉へ』について」と題する報告があり、その後、質疑応答が行われた。

2) 第2回会合

【日時】2025年8月7日(木)16:30～20:00

【場所】政策研究大学院大学 3A 教室

【参加者／参加人数】10名

于鉄軍（北京大学教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

大庭三枝（神奈川大学法学部教授）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

益尾知佐子（九州大学大学院比較社会文化研究院教授）

内田州（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

道下徳成（政策研究大学院大学教授）

竹中治堅（政策研究大学院大学教授）

山口信治（防衛研究所主任研究官）

高原明生（東京大学名誉教授）

【概要】

于鉄軍氏より「Chinese attitude towards Confidence Building Measures, Arms Control and Disarmament」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。その後、国際情勢についての意見交換も実施した。

(2)研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

1) 第1回会合

【日時】2025年6月9日(月)18:30～20:30

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】8名

細谷雄一(慶應義塾大学法学部教授)

岩間陽子(政策研究大学院大学教授)

鶴岡路人(慶應義塾大学総合政策学部教授)

山本みずき(東京大学 大学院法学政治学研究科 特任研究員)

東野篤子(筑波大学人文社会系教授)

合六強(二松学舎大学国際政治経済学部准教授)

小林弘幸(東京大学先端研学技術研究センター特任研究員)

ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）教授）

【概要】

報告者の岩間委員より「西側同盟の現状と今後について」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。また、研究会の最終成果につき打ち合わせを実施した。

2) 研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」共催研究会・第1回会合

【日時】 2025 年 7 月 16 日(水)10:00～11:30

【場所】 ZOOM

【参加者／参加人数】 11 名

村野将（米ハドソン研究所研究員）

細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）

岩間陽子（政策研究大学院大学教授）

鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部教授）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

合六強(二松学舎大学国際政治経済学部准教授)

寺岡亜由美（コロンビア大学博士研究員）

小森宏美（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

山本直（日本大学法学部教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

小林弘幸（東京大学先端研学技術研究センター特任研究員）

【概要】

研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との共催で開催された。報告者の村野氏より「西側同盟の核の現状について」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

(3-3)研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「戦争の記憶と宗教」

1) 打ち合わせ会議(1)

【日時】 2025 年 10 月 6 日(月) 15:00～17:00

【場所】 ZOOM

【参加者／参加人数】 3 名

西村明（東京大学大学院 人文社会系研究科 教授）

立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）

犬塚悠太（東京大学大学院 人文社会系研究科 博士課程）

【概要】

第3回徳之島国際ユースキャンプ（学生プレゼン、現地ディスカッション、スケジュール、後援、共催等）についての打合せ

2) 打ち合わせ会議(2)

【日時】 2025 年 11 月 19 日(水) 16:00～17:30

【場所】 ZOOM

【参加者／参加人数】 16 名

西村明（東京大学大学院 人文社会系研究科 教授）

立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）

犬塚悠太（東京大学大学院 人文社会系研究科 博士課程）

松岡由紀（伊仙町社会教育課町誌編纂室室長）

大倉あゆみ（伊仙町教育委員会） 他

【概要】

第3回徳之島国際ユースキャンプ（参加者決定、学生プレゼン、現地スケジュール、後援、共催等）についての打合せ

(4-1)研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

1) 第1回会合（謝金なし）

【日時】2025年5月11日(日)9:15～10:15

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】7名

山口航（帝京大学 法学部 准教授）

石本凌也（北海道教育大学 教育学部 函館校 講師／東京大学 先端科学技術研究センター客員研究員）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）

堀田主（北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 非常勤研究員）

三代川夏子（成蹊大学 法学部 助教）

【概要】

幹事（石本）より本年度に関する事務的な説明があった後、ユニット長（山口先生）を中心に、参加者全員で今年度の目指す成果や今後の研究活動についての意見交換を行い、本会合を終えた。

2) 第2回会合

【日時】2025年7月27日(日)14:00～17:00

【場所】東京大学先端科学技術研究センター14号館 114教室

【参加者／参加人数】8名

山口航（帝京大学 法学部 准教授）

石本凌也（北海道教育大学 教育学部（函館校） 講師／東京大学 先端科学技術研究センター 客員研究員）

小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）

田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）

中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）
堀田主（北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 非常勤研究員）
三代川夏子（成蹊大学 法学部 助教）
大澤傑（愛知学院大学 文学部 准教授）

【概要】

- ・山口航（帝京大学 法学部 准教授）
「政治指導者と国際政治」

3) 第3回会合（謝金なし）

【日時】2025年8月24日(日)15:00～17:30

【場所】北海道教育大学函館校小会議室

【参加者／参加人数】6名

山口航（帝京大学 法学部 准教授）
石本凌也（北海道教育大学 教育学部 函館校 講師／東京大学 先端科学技術研究センター客員研究員）
小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）
田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）
中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）
三代川夏子（成蹊大学 法学部 助教）

【概要】

- ・石本凌也（北海道教育大学 教育学部（函館校） 講師／東京大学 先端科学技術研究センター 客員研究員）
「バイデンからトランプへ：ウクライナをめぐる変化、継続と歴史的文脈」

4) 第4回会合

【日時】2025年11月29日(土)14:00～17:00

【場所】東京大学先端科学技術研究センター14号館114教室

【参加者／参加人数】7名

山口航（帝京大学 法学部 准教授）
石本凌也（北海道教育大学 教育学部（函館校） 講師／東京大学 先端科学技術研究センター 客員研究員）
小南有紀（日本国際問題研究所 研究員）
田口季京（コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー）
中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）
堀田主（北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 非常勤研究員）
三代川夏子（成蹊大学 法学部 助教）

【概要】

- ・中川倫梨子（慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程）
「戦後日本における右派団体の対台湾認識(仮)」

(6)研究会「紛争解決の理論と実践」

1) 第1回会合

【日時】2025年5月27日(火)13:30～16:30

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】7名

篠田 英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授）

Harinda R. Vidanage（General Sir John Kotelawala Defence University General Sir John Kotelawala Defence University）

Chaminda Padmakumara（コロンボ大学国際関係学部 学部長・教授）

Nilanthan Niruthan（Centre for Law and Security Studies (CLASS) Executive Director）

K. A. Sandunika Hasangani（Open University Senior Lecture）

Sahani Welikala（Conley Teas & Student of International Relations Managing Director）

Ajith Balasooriya（University of Colombo）

【概要】

議題：「序論：南アジアにおける紛争解決の課題」（議長：篠田 英朗 教授）

冒頭に篠田議長が研究報告書の論文執筆の趣旨及び予定などについて説明を行い、あわせて序章の執筆計画について報告をした後、各参加者が各人の論文執筆計画を、事前提出した資料にもとづいて、報告した。それぞれの論文案に対して、他の参加者が意見を述べて、議論を行った。

2) 第2回会合

【日時】2025年6月3日(火) 13:00～15:00

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】8名（他23名）

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授）

吉崎知典（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 特任教授）

Anna Mykolayivna Ischenko（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部 上級講師）

Iurii Perga（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部大学院 教授）

Olena Akimova Kasatnika（ウクライナ国立工科大学（KPI）経営理論実践学科 准教授）

Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev（ウクライナ国立工科大学（KPI）社会学部 学部長）

Sinisa Vukovic（ジョンズ・ホプキンス大学高等国際関係大学院 上級講師）

上杉勇司（早稲田大学国際学術院 教授）

その他の参加者（ROLES、東京外国語大学、外務省、JICA ウクライナ事務所などから計 23 名）

【概要】

議題：「成熟度と相互に魅力的な機会（MEO）：ロシア・ウクライナ戦争の影響に関する議論」/“Ripeness and Mutually Enticing Opportunities (MEO): Discussions about The Impacts of Russo-Ukrainian War”
（座長：篠田英朗教授）

『The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine（ロシア・ウクライナ戦争の影響：ウクライナにおける平和の政策課題に関する理論的・実践的探究）』という書籍を議論の基盤として、シニシャ博士は、成熟度理論およびMHS（相互に苦痛を伴う膠着状態）、MEO（相互に魅力的な機会）に関する調停理論を提示し、ロシア・ウクライナ戦争における調停の性質と展望に関する自身の見解を述べた。上杉博士を主たる討論者として、戦争が継続する中での調停に関する理論的側面および実務的見解について、全体討論が行われた。

3) 第3回会合

【日時】2025年6月10日(火)21:00～23:00

【場所】ZOOM

【参加者／参加人数】2名（他27名）

Gonzalo Jimenez（元 国連世界食糧計画（WFP）パキスタン国事務所 現金給付支援部 部長）

篠田英朗（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授）

Ijlal Eltahir（東京外国語大学 大学院生）

Harumi Kitabayashi（東京外国語大学）

Kayoko Sakata（ユニの会）

長谷川明子（青山学院大学 教員）

Augusta Nchedo（東京外国語大学 平和構築・紛争予防専修コース(PCS) 大学院生）

Kazuma Igimi（Kyoryu 株式会社（ベトナム現地企業））

柿澤福郎（AAR Japan 難民を助ける会）

Jato Emmanuel（東京外国語大学 大学院生）

Mohammad Jawad Ali Aqa（東京外国語大学卒業生）

金澤拓馬（JICA）

Thembo Jesus（東京外国語大学 平和構築・紛争予防専修コース(PCS) 大学院生）

Ryo Oyake（日本大学 学部生）

Hisao-Wei Lee（WFP アフガニスタン国事務所代表）

Mari Masuoka（WFP）

Eri Suzuki（UNICEF）

Nicholas Mathers（コンサルタント）

Bruno Asimwe（ROLES 交流研究生）

下山琉瑠（ROLES 交流研究生）

岩瀬彩良（ROLES 交流研究生）

他 外務省から8名参加

【概要】

議題:「国際平和、開発および人道支援における課題」/“Challenges for International Peace, Development and Humanitarian Assistance” (座長: 篠田英朗教授)

国際平和、開発および人道支援における課題の背景に関して、ゴンサロ・ヒメネス氏は、人道および開発支援活動への拠出において、米国および主要な欧州ドナー双方の貢献が減少傾向にあることを強調した。これらの課題は、援助機関の実施、効率性および効果性に関する課題として現れており、援助機関は、人材管理・調整の課題から経済開発、財政関連の課題に至るまで、ますます多様な問題を抱えている。篠田教授が座長を務める中、全体討議では、援助機関、各国政府および地域組織における優先課題の設定が急務であることが明らかになった。

4) 第4回会合

【日時】2025年6月23日(月)16:00~18:00

【場所】ZOOM

【参加者/参加人数】9名

篠田英朗 (東京外国語大学院総合国際学研究院 教授)

登利谷正人(東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授)

Md Jahangir Alam (Associate Professor, Department of Japanese Studies, University of Dhaka)

Mohammad Jawad Ali Aqa (Ph.D., Graduate Tokyo University of Foreign Studies)

Harinda R. Vidanage (Director, Centre for Strategic Assessment, General Sir John Kotelawala Defence University)

Chaminda Padmakumara (Professor and Head of Department of International Relations, University of Colombo)

Nilanthan Niruthan (Executive Director, Centre for Law and Security Studies)

K. A. Sandunika Hasangani (Senior Lecture, Open University)

Sahani Welikala (Managing Director, Conley Teas & Student of International Relations)

【概要】

議題「ROLES Review “Conflict Resolution in South Asia” 執筆検討会議」

年末までに公刊する予定の ROLES Review としての論文集の構想を、相互に批評しあって、精緻化していくことを目的にした会議である。同趣旨の会合の二回目となる今回は、アフガニスタン、バングラデシュ、カシミール紛争に関する各論文について討議する。

5) 第5回会合

【日時】2025年7月13日(日)19:00~19:30

【場所】ZOOM

【参加者/参加人数】8名

篠田英朗 (東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授)

井上実佳 (東洋学園大学教授)

Simon Nyambura (IGAD リーダーシップ・アカデミー)

Markos Rike (元エチオピア外務省国務大臣 元駐日エチオピア大使 元駐エジプトエチオピア大使)
Abdifatah Aden Abdi (ソマリア内務・連邦・和解省 (MOIFAR) 平和構築・紛争アドバイザー)
Stephen Mogaka (ケニア・ナイロビ在住 独立コンサルタント／東アフリカ国際関係および政治経済専門家)
Rosalind Nyawira (ケニア国家テロ対策センター 前所長)
Yonas Ashine (アディスアベバ大学 政治学・国際関係学科長)

【概要】

議題：「東アフリカにおける紛争解決と FOIP に関する ROLES レビューの論文計画の検討」 (座長：篠田英朗 教授)

論文草稿の執筆候補者に対し、各論文の想定されるアジェンダ、今後の出版および公開媒体についての説明が行われた。公開媒体には ROLES のウェブサイトでの公刊や、ナイロビで IGAD (政府間開発機構) と共催でシンポジウムを開催することなど含まれる。

6) 第 6 回会合

【日時】 2025 年 9 月 12 日(金)14:00～15:30

【場所】 ZOOM

【参加者／参加人数】 46 名

篠田英朗 (東京外国語大学大学院 総合国際学研究院 教授)
田中耕太郎 (JICA ウクライナ事務所長)
Anna Mykolayivna Ischenko (ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部 上級講師)
Iurii Perga (ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部大学院 教授)
Olena Akimova Kasatnika (ウクライナ国立工科大学 (KPI) 経営理論実践学科 准教授)
Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev (ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部 学部長)
吉崎知典 (東京外国語大学総合国際学研究院 特任教授)
他 39 名

【概要】

「JICA によるウクライナ危機への継続的対応」 (座長：篠田英朗教授)

田中耕太郎氏は、JICA によるウクライナ危機への継続的対応について発表を行った。特に、政府機能の継続を確保するための重点分野、避難を余儀なくされたウクライナ人および受け入れ国への支援、さらにウクライナ主導による復興・再建プログラムへの支援に焦点が当てられた。

7) 第 7 回会合

【日時】 2025 年 9 月 16 日(火)9:00～18:00

コロンボ大学 (スリランカ)

【参加者／参加人数】 11 名

篠田英朗 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授)
Md Jahangir Alam (Associate Professor, Department of Japanese Studies, University of Dhaka)
Mohammad Jawad Ali Aqa (Ph.D., Graduate Tokyo University of Foreign Studies)

Harinda R. Vidanage (Director, Centre for Strategic Assessment, General Sir John Kotelawala Defence University)

Chaminda Padmakumara (Professor and Head of Department of International Relations, University of Colombo)

Nilanthan Niruthan (Executive Director, Centre for Law and Security Studies)

K. A. Sandunika Hasangani (Senior Lecture, Open University)

Sahani Welikala (Managing Director, Conley Teas & Student of International Relations)

村田真一(在スリランカ日本国大使館 政治担当官)

Attila Nasir (在スリランカ日本国大使館 政治部研究員・顧問)

Bruno Asimwe(ROLES 補佐、オンライン参加)

【概要】

「草稿論文の検討」 (座長：篠田英朗 教授)

各参加者は事前に論文を提出し、全員でそれぞれの論文を検討したうえで、速やかに最終版を完成できるようにした。

7) 第8回会合

【日時】 2025 年 11 月 18 日(火)・19 日 (水) : 9:00 – 17:00 (ケニア時間) (両日とも昼食休憩 1 時間)

MARA Room at Mercure Nairobi Upper Hill [Annex] (ナイロビ)

【参加者／参加人数】 25 名

篠田英朗 (東京外国語大学院総合国際学研究院 教授)

井上実佳 (東洋学園大学教授)

Simon Nyambura (IGAD リーダーシップ・アカデミー)

Markos Rike (元エチオピア外務省国務大臣 元駐日エチオピア大使 元駐エジプトエチオピア大使)

Yonas Ashine (アディスアベバ大学 政治学・国際関係学科長)

Abdifatah Aden Abdi (ソマリア内務・連邦・和解省 (MOIFAR) 平和構築・紛争アドバイザー)

Stephen Mogaka (ケニア・ナイロビ在住 独立コンサルタント／東アフリカ国際関係および政治経済専門家)

Rosalind Nyawira (ケニア国家テロ対策センター 前所長)

Nkatha Kabira (ナイロビ大学法学部上級講師)

Martha Njiiri (IGAD 暴力的過激主義対策・予防センター戦略的コミュニケーション部門長)

Ashenafi Mebratu (エチオピアハラマヤ大学社会科学人文学部社会学講師)

Muiru Ngugi (ナイロビ大学学術出版会上級講師)

Patrick Maluki (ナイロビ大学外交国際学研究所長)

Elizabeth Katusiime (ウガンダメケレレ大学研究者)

Sam Kamau (国立防衛大学戦略的コミュニケーション・統治専門家)

David Muturi (コンサルタント)

他オブザーバー 9 名

【概要】

「草稿論文の検討」（座長：篠田英朗 教授）

各参加者は事前に論文を提出し、全員でそれぞれの論文を検討したうえで、速やかに最終版を完成できるようにした。

(2) ヒアリング実施

【非公開】

(3) 海外出張実施

実施日	リンク	対象者氏名（所属）	訪問先	内容	実施研究会
2025/6/4-6/7	研究会「安全保障協力体制の構想」委員によるモンゴル訪問・「第10回ウランバートル対話」への参加	岩間陽子（政策研究大学院大学教授） 大庭三枝（神奈川大学法学部教授） 内田州（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員） 小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）	ウランバートル（モンゴル）	東大先端研 ROL ES（創発戦略研究オープンラボ）が組織する研究会「安全保障協力体制の構想」メンバーと ROLES 特任研究員からなる訪問団が、6月4日から6月7日にかけてモンゴルの首都ウランバートルを訪問し、研究会の活動の一貫として「The Ulaanbaatar Dialogue on Northeast Asian Security: The Tenth International Conference」に参加。また、モンゴル国家安全保障委員会・戦略研究所（Institute for Strategic Studies, National Security Council, Mongolia: IS	研究会「安全保障協力体制の構想」

				S) と、本年 8 月開催予定の国際会議についての会談も行った。	
2025/6/10-6/18	Trends International 訪問 (アブダビ)	池内恵 (東京大学先端科学技術研究センター教授)	アブダビ (アラブ首長国連邦)	Trends International 訪問 (アブダビ)	2/1.5 トラック協議・政策/戦略対話
2025/7/26-8/3	アンマン 「安全保障・戦略対話」	池内恵 (東京大学先端科学技術研究センター教授) 内田州 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)	アンマン (ヨルダン)	アンマン 「安全保障・戦略対話」	2/1.5 トラック協議・政策/戦略対話
2025/8/23-8/28	国際会議「50 Years of the Helsinki Final Act: European Experience and Asian Future」の開催	益尾知佐子 (九州大学大学院 比較社会文化研究院教授) 秋山信将 (一橋大学国際・公共政策大学院・教授) 岩間陽子 (政策研究大学院大学・教授) 大庭三枝 (神奈川大学法学部・教授) 桑原尚子 (岩手県立大学 総合政策学部准教授) 堀田主 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター) 内田州 (東京大学先端	モンゴル	モンゴル国家安全保障委員会・戦略研究所 (Institute for Strategic Studies, National Security Council, Mongolia: ISS) との共催で、国際会議「50 Years of the Helsinki Final Act: European Experience and Asian Future」を開催した。	研究会「安全保障協力体制の構想」

		科学技術研究センター 特任研究員) 小林弘幸 (東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員) 中村真咲 (名古屋経済大学 経営学部教授) 他			
2025/9/10	立田由紀恵特任研究員がモスタル大学を訪問	立田由紀恵 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)	モスタル (ボスニア・ヘルツェゴビナ)	モスタル大学 (Sveučilište u Mostaru) 哲学部国際協力副学部長イェレナ・ユルチッチ教授、大学国際協力部のアナ・シユマン氏と面会をし、今年度モスタル大学と共同で行うイベントの企画と今後の研究協力活動について打ち合わせをした。	研究会「宗教と国際秩序」
2025/9/11-9/17	イスタンブル、アブダビ 国際会議開催企画のための会合	池内恵 (東京大学先端科学技術研究センター教授)	アブダビ (アラブ首長国連邦)、イスタンブル (トルコ)	イスタンブル、アブダビ 国際会議開催企画のための会合	2/1.5 トラック協議・政策/戦略対話

2025/09/15-9/17	コロンボ大学 第7回研究会 合出席	Md Jahangir Alam (Associate Professor, Department of Japanese Studies, University of Dhaka) 篠田英朗 (東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授)	コロンボ (スリランカ)	コロンボ大学 第7回研究会合 出席	研究会「紛争解決の理論と実践」
2025/9/18	立田由紀恵特任研究員がノビ・パザル大学ファフラトビッチ准教授と面談	立田由紀恵 (東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)	ノビ・パザル (セルビア)	セルビアでボシュニャク人の多いサンジャク地方のノビ・パザルで、政治家でもあるノビ・パザル大学ヤフヤ・ファフラトビッチ准教授と面会し、ノビ・パザルおよび西バルカン各地のボシュニャク人についての聞き取りを行った。	研究会「宗教と国際秩序」
2025/12/16-19	ロンドン 資料調査	小南有紀	ロンドン (イギリス)	資料調査	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/ サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/11/16-11/25	Research Seminar	篠田英朗 (東京大学先端科学技術研究センター 客員上級研究員) 他7名	ナイロビ (ケニア)		研究会「紛争解決の理論と実践」

2025/12/24- 2026/1/10	ASEAN の対中東関係の調査	池内恵（東京大学先端 科学技術研究センター 教授	クアラ ルンブ ール （マレ ーシ ア）	ASEAN の対中東 関係の調査	
2026/1/16-1 /20	米国南部政治学会・年次大会 での報告	池内恵（東京大学先端 科学技術研究センター 教授）	ニュー オーリ ンズ （アメ リカ）	米国南部政治学 会・年次大会で の報告	
2026/1/28-2 /2	ナポリ大学での公開イベント	平藤喜久子（國學院大 學 神道文化学部 教 授）、伊達聖伸	ナポリ （イタ リア）	ナポリ大学での 公開イベント	研究会「宗 教と国際秩 序」/サブユ ニット「日 本の宗教伝 統と価値 観」

(4) イベント・シンポジウム開催

日時	イベント名	講演者（所属）	形式	事前 登録	当日 参加	共催機関	実施研究会
2025/4/24	国際セミナー「海底インフラとインド太平洋の海洋秩序—地政学から見る安全保障の最前線」	池内恵（東京大学教授）＊開 会挨拶 Brendon J. Cannon（カリ ファ大学准教授） 松尾一輝（日本 GIF 客員研 究員） Dattesh Parulekar（ゴア大 学助教） Jagannath Panda（ストッ クホルム南アジア・インド太 平洋センター長／ワルシャワ 大学教授） Yee-Kuang Heng（東京大 学教授） 北川敬三（元海上自衛隊一等 海佐／慶應義塾大学教授）＊ コメンテーター	ハイ ブリ ッド 形式	5	26		研究会「安全 保障協力体制 の構想」
2025/5/12	RCAST セキュリ ティ・セミナー 「宗教と政治： ロシア、米国、ウ クライナ」	シリル・ホヴォルン（米ロヨ ラ・メリーマウント大学ハフ イントン・キリスト教研究所 長）、	対面	9	15		研究会「ロシ ア・ウクライ ナ戦争の背 景・展望・帰 結」、研究会 「宗教と国際 秩序」、研究 会「自由・民 主主義の動揺 と再編」
2025/5/19	【京都大学での開 催】セミナー「第 2次トランプ政権 における中東の地	ザイド・イヤード（ヨル ダン大学国際関係大学院長・ 戦略研究センター所長）、待 鳥聡史（京都大学大学院法学 研究科教授）、池内恵（東京	対面		8		研究会「中 東・イスラ ム世界の多極 化と均衡」、 「2／1.5 トラ

	域秩序」(招待制)	大学先端科学技術研究センター教授・ROLES 代表)、小野沢透(京都大学文学研究科教授)、辻田俊哉(大阪大学Co*デザイン・センター准教授)、外山文子(筑波大学准教授/京都大学東南アジア研究所連携准教授)、石合力(朝日新聞大阪本社編集委員)					ック協議・政策／戦略対話」、研究会「自由・民主主義分析の実証的方法と応用」、研究会「自由・民主主義の動揺と再編」
2025/5/22	「特別講義 アラブ政治を見る三つの視覚：政治の科学、宗教・倫理、統治術」	ザイド・イヤード(ヨルダン大学国際関係大学院長・戦略研究センター所長)	対面		15		研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」、 「2/1.5 トラック協議・政策／戦略対話」、研究会「自由・民主主義分析の実証的方法と応用」、研究会「自由・民主主義の動揺と再編」
2025/5/26	ブックローンチ・セミナー『ウクライナの「避けられなかった」戦争』	クリスチャン・ニツォイウ(英ラフバラー大学外交・国際関係研究所准教授・研究・イノベーション担当副学部長補佐)	対面		10		研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展望・帰結」、研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/5/31	東大駒場リサーチキャンパス公開2025「外交・安全保障シンクタンクはどこへいく？ R	池内恵(東京大学先端科学技術研究センター教授/ROLES 代表)、鈴木一人(東京大学公共政策大学院教授/地経学研究所(IOG)所長)、松本	ハイブリッド形式	287	269		

	OLES の挑戦と日本の課題」	太（一橋大学国際・公共政策大学院教授/前・駐イラク特命全権大使/前・日本国際問題研究所ネットワーク本部長）、山本文士（外務省総合外交政策局参事官・大使）、国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授/ROLES 副代表）、中井遼（東京大学先端科学技術研究センター教授）					
2025/7/11	セミナー「第2次トランプ政権と国際安全保障環境：欧州とアジア協力の可能性」	ギブール・ドラモット（東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員／フランス国立東洋言語文化学院教授）	対面	12	20		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/7/27-8/1	第1回アカバ安全保障・戦略フォーラムの開催	【非公開】	対面		25	レヴァント戦略研究センター（Levant Strategic Centre: LSC）	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」、研究会「2/1.5トラック協議・政策／戦略対話」
2025/8/25-26	国際会議「50 YEARS HELSINKI FINAL ACT: EUROPEAN EXPERIENCE AND ASIAN FUTURE」	AKIYAMA, Nobumasa (Professor, Hitotsubashi University)、ARAI, Makiko (Research Fellow, JICA Ogata Sadako Institute for Research and Development)、HOTTA, Tsukasa (Hokkaido University Slav Research Center)、ISHII, Masafumi (Former Ambassador to Indonesia)、IWAMA, Yoko (Professor, GRIPS (National Gr	対面	0	20		研究会「安全保障協力体制の構想」

		aduate Institute of Policy Studies)), JIMBO, Ken (Professor, Keio University)、KOBAYASHI, Hiroyuki (Project Researcher of RCAST (Research Center for Advanced Science and Technology), University of Tokyo)、KOSAKA, Hirofumi (Lecturer, Nagoya City University)、KUWAHARA, Naoko (Associate Professor, Iwate Prefectural University)、MASUO, Chisako T. (Professor, Kyushu University)、NAKAMURA, Masaki (Professor, Nagoya University of Economics)、OBA, Mie (Professor, Kanagawa University)、UCHIDA, Shu (Project Researcher of RCAST (Research Center for Advanced Science and Technology), University of Tokyo)、Gaens Bart (Finnish Institute of International Affairs)、Pit Heltmann (Former German Ambassador to North Korea)、R. Bold (Institute for Strategic Studies of Mongolia) MASHBAT Otgonbayar (NSC Mongolia)、MENDEE Jargalsaikhan (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、P. Batjargal (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、B. Khandsuren (I					
--	--	---	--	--	--	--	--

		nstitute for Strategic Studies of Mongolia)、SOYOLGEREL Nyamjav (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、ALTANKHUU Badarch (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、T. SOGTGEREL Nyamtseren (Mongolian National Defense University)、CHANDMANI Sukhbaatar (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、T. Mungunshatar (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、Buyandelger Davaajantsan (Institute for Strategic Studies of Mongolia)、Felix Glenk (Hanns Seidel Foundation Mongolia)					
2025/9/30	【共催】読売国際会議 9 月フォーラム「危機の 30 年 冷戦後秩序はなぜ揺らいだのか」	ジョナサン・ハスラム（英ケンブリッジ大名誉教授）、ブレンダン・シムズ（英ケンブリッジ大教授）、北岡伸一（東大名誉教授）、細谷雄一（慶応大教授）、森聡（慶応大教授）、池内恵（東大教授、東大 ROLES 代表）	ハイブリッド形式	-	520	読売新聞社、読売国際経済懇話会（YIES）	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/10/1	セミナー「Geopolitics and Secret Intelligence during the Cold War and Beyond」	ジョナサン・ハスラム（ケンブリッジ大学名誉教授）、ブレンダン・シムズ（ケンブリッジ大学教授）、カーリーナ・ウルバツハ（ロンドン大学歴史学研究所シニア・リサーチ・フェロー）、細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）、池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）	対面	0	15		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

2025/10/3	セミナー「中東欧をめぐり大国間の闘争：情報と外交」	ジョナサン・ハスラム（英ケンブリッジ大名誉教授）、カリーナ・ウルバッハ、倉科一希（同志社大学グローバル地域文化学部教授）、池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授、ROLES 代表）、倉科一希（同志社大学グローバル地域文化学部教授）	対面	0	12		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/10/3	セミナー「大国の復権－国際関係史の視座から」	ブレンダン・シムズ（ケンブリッジ大学国際関係史教授）、細谷雄一（慶應義塾大学法学部教授）、武田悠（広島市立大学 国際学部 准教授）	対面	0	10		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/10/29	日豪抑止対話特別公開セッション「なぜいまオーストラリアカーインド太平洋の文脈で」	Brendan Taylor（オーストラリア国立大学戦略・国防研究センター（SDSC）所長・教授）、Stephan Fruehling（オーストラリア国立大学戦略・国防研究センター（SDSC）教授）、Lauren Richardson（オーストラリア国立大学国際関係学学講師）、鶴岡路人（慶應義塾大学総合政策学部教授）	対面	0	30		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/10/31	Animism Future Forum – Rethinking Animism from Japan	Fabio Gygi (SOAS, London University)、Lucia Dolce (SOAS, London University)、Alan Cumming (SOAS, London University)、Meghan Barker (University College London) Simon Kaner (Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts and Cultures, East Anglia University)、西	対面	0	30	Japan Research Center, SOAS University of London Sainsbury Institute for the Study of Japanese Arts	研究会「宗教と国際秩序」/ サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」

		村明（東京大学）、平藤喜久子（國學院大學）、港千尋（多摩美術大学、写真家）				and Cultures	
2025/11/9	共催合評会「戦後日本のPKO政策と日米首脳会談」	玉置敦彦（中央大学）、久場川傳（慶應義塾大学大学院）、庄司貴由（三重大学）、山口航（帝京大学）、白鳥潤一郎（放送大学）	ハイブリッド形式	－	48	「国際政治とリーダーシップ」（東大先端研 ROLES サブユニット）	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/11/10	Japan-Balkan Academic Caravan 2025 (Events at University of Banja Luka, Faculty of Political Sciences)	平藤喜久子（國學院大學教授）、西村明（東京大学文学部教授）、立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）、Paride Stortini（ゲント大学リサーチ・フェロー）	対面	0	35		研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2025/11/12	Japan-Balkan Academic Caravan 2025 (Events at University of Mostar (SUM))	平藤喜久子（國學院大學教授）、西村明（東京大学文学部教授）、立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）、Paride Stortini（ゲント大学リサーチ・フェロー）、Peter van der Veer（ユトレヒト大学特別名誉教授）、Dat Nguyen（戦争・ホロコースト・ジェノサイド研究所（オランダ）研究員）、李 貞善(Lee Chungsun)（東京大学大学院人文社会系研究科特任助教）（オンライン講演）	対面	0	112	University of Mostar (SUM)	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2025/11/14	Japan-Balkan Academic Caravan 2025 (Events at University of Sarajevo, Faculty of	平藤喜久子（國學院大學教授）、西村明（東京大学文学部教授）、立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）、Paride Stortini（ゲント大学リサーチ・	対面	－	43	University of Mostar (SUM)	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」

	Political Sciences)	フェロー)、Peter van der Veer (ユトレヒト大学特別名誉教授)、Dat Nguyen (戦争・ホロコースト・ジェノサイド研究所 (オランダ) 研究員)、Dino Abazović (University of Sarajevo)					
2025/11/19-20	第2回日本・中東戦略対話	Zaid Eyadat (Professor at the University of Jordan, Founding President of LS C)、池内恵 (東京大学教授)、ASARI Hideki (Ambassador of Japan to Jordan)、Jawad Anani (Former Deputy Prime Minister, Minister of Investment, Minister of Industry, Trade and Supply, Minister of Foreign Affairs and former Chief of the Royal Court)、UEMURA Tsukasa (Special Envoy for the Middle East Peace, Japan)、MIYAJIMA Akio (Former Ambassador to Turkey, former Ambassador to Poland)、NAGAI Yosuke (Executive Director, Accept International)、ABE To shiya (Director General of the Evaluation Department, Japan International Cooperation Agency (JICA))、Molly Hickey (PhD candidate in the Department of Government at Harvard University, Fellow of the Levant Strategic Centr	対面	-	150		研究会「研究会「紛争解決の理論と実践」、研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」(発展型総合事業「ポスト・ウクライナ」)、研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」(発展型総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」)

		e (LSC)) 、 Karim Kawar (President, Kawar Group) 、 KITAMURA Kenichiro (JBIC Middle East Chief Representative) 、 Ibrahim Saif (Former Minister of Energy & Mineral Resources, Minister of Planning & International Cooperation) 、 Nooh Alshyab (Commissioner at Jordan's Telecommunications Regulatory Commission, Professor of Economics, Yarmouk University) 、 Mukhallad Omari (Board Chair for Admiral Markets Jordan, Consultant with the World Bank Group, former Secretary General of Jordan Investment Commission) 、 Karam Karam (Regional Advisor for peacebuilding, governance, and institutional development at the United Nations Economic and Social Commission for Western Asia (UN-ESCWA)) Najib Ghadbian (Advisor to the Syrian Foreign Minister, former special representative to the United Nations and the United States for the National Coalition of Syrian Revolutionary and Opposition Forces) 、 Ziad al-Majali (Former Jordanian Ambassador; Lebanon, South Afri					
--	--	--	--	--	--	--	--

		ca, Russian Federation, and First Jordanian Representative to the Palestinian Authority)、Mohammad Farghal (Former Director General of King Abdullah II Design and Development Bureau (KADDB), former Director General of the Jordanian Armed Forces' Centre for Strategic Studies)、H. E. Kais Khalil Zayadin (Former Member of Jordanian Parliament, Senior Associate at Al Tamimi & Company)、Kayed Maari (Co-founder, Witness Center (The West Bank))、Batool Elyan (Youth Civil Society Leader (The West Bank))、Dalal Salameh (Member of Central Committee of the Palestinian National Liberation Movement)、Dr. Walaa Al Husb an (Assistant Professor, Department of International Development, Prince Al Hussein bin Abdullah School of Political Science and International Studies, University of Jordan) 他					
2025/12/16	日本・UAEの先端科学技術協力に関するシンポジウムを共催	Ms. Shaikha AlNuaimi (Researcher, TRENDS Research and Advisory)、Dr. Mohammed Al Ali, (CEO of Trends Research & Advisor	対面	-	150	TRENDS Research & Advisory (UAE)	研究会「紛争解決の理論と実践」、研究会「先端科学技術と安全保

		y) 、 H.E. Ken Okaniwa (Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan in UAE) 、 H.E. Omran Sharaf (Assistant Foreign Minister for Advanced Science and Technology) 、 Mr. Hirofumi Miyake (Deputy Assistant Minister for Middle Eastern and African Affairs Bureau, MOFA in Japan (Online)) 、 Mr. Ren Ito (Co-Founder and COO, Sakana AI) 、 Mr. Kenji Otsuka (Chairman of the Japanese Business Council (JBC)) 、 Dr. Ebtesam Almazrouei, Executive Director, Office of AI and Advanced Technology, Department of Finance – Abu Dhabi and Chairperson of the United Nations AI for Good Impact Initiative、 Sumaya Al Hajery (Technology Policy and Regulation Expert, UAE) 、 Mr. Amer AlSayegh, (Assistant Director General – Aerospace Engineering Sector, MBRSC) 、 Mr. Santosh Karuru (Senior Investment Leader and Head of Financial Incentives, ADIO) 、 Abdulaziz Al Shehi (Researcher, Deputy Head of Research Sector, TRENDS Research & Advisory) 、 H.E. Eng. Salem Butti				障」 (発展型総合事業「ポスト・ウクライナ」)
--	--	---	--	--	--	--------------------------------

		Al Qubaisi (Director General, UAE Space Agency) 、 Prof. Sean Swei (Professor of Practice, Aerospace Engineering, Khalifa University) 、 Dr. Masami ONODA (Director, International Relations and Research Department of JAXA) 、 Mr. Masanori MUTO (Chief Research Manager & Frontier Strategy Group Leader, Mitsubishi Research Institute) 、 Mr. Jumpei NOZAKI, (Chief Financial Officer & Executive Business Director, ispace) 、 Shamma Al Qutbah (Researcher, TRENDS Research and Advisory) 、 Prof. Masahiko INAMI (Professor, RCAST of the University of Tokyo) 、 Dr. Yasuaki MONNAI (Associate Professor, RCAST of the University of Tokyo) 、 Prof. Hao Li (Dean of Undergraduate Division, Director of the Metaverse Center and Professor of Computer Vision, MBZUA I) 、 Mr. Koki SHIGENOI (Associated Researcher at RCAST, The University of Tokyo) 、 Rashid Al Zaabi (Researcher, TRENDS Research & Advisory) 、 Mr. Eissa Al Manaai (AI Researcher, TRENDS Research					
--	--	---	--	--	--	--	--

		and Advisory) 、Dr. Hiroshi YAMAKAWA (WBAI, University of Tokyo) 、Dr. Daisuke OKANOHARA (Co-Founder and Chief Executive Officer of the Preferred Networks) 、Mouza Almarzouqi (Senior Researcher, Director of Economic Studies Department, TRENDS Research and Advisory) 、Prof. Satoshi IKEUCHI (Professor at RCAST of the University of Tokyo and Head of TRENDS Japan Virtual Office)					
2025/12/18	セミナー「Building Eternity: Japanese Perspectives on Sustainability and the Sacred」	平藤喜久子（國學院大學教授・SOAS 客員研究員）、甲木浩太郎（在英日本大使館公使）	ハイブリッド形式	-	147	University of East Anglia (UK) Sainsbury Institute (セインズベリー日本藝術研究所)	研究会「宗教と国際秩序」/ サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2025/12/20	第3回徳之島国際ユースキャンプ・交流会「世界の大学生と徳之島を語ろう」	エミリヤ・グルミッチ（バニャルカ大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）・学生）、イワン・ヌイッチ（モスタル大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）・学生）、アナ・エレナ・バンドウーカ（サラエボ大学（ボスニア・ヘルツェゴビナ）・学生）、ラファエル・フロレス・フェルナンド（デラサール大学（フィリピン）・学生）、新垣みずほ（琉球大学・学生）、西原来	対面	-	59		研究会「宗教と国際秩序」/ サブユニット「戦争の記憶と宗教」

		海（鹿児島大学・学生）、和田理恵（東京大学・学生）、細野一斗（東京大学・学生）、佐倉功一（黒潮太鼓代表）、西村明（東京大学文学部教授）、松岡由紀（伊仙町社会教育課町誌編集室室長）、大倉あゆみ（伊仙町教育委員会）、犬塚悠太（東京大学文学部博士課程学生）、立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）					
2026/1/9	QWS ACADEMIA「個人の記録はいかにして社会の記憶となるのか？ー博物館と新聞が向き合う「戦争の語り継ぎ」ー」	森原彩子（毎日新聞社・社会部北海道グループ 記者）、長嶺睦（舞鶴引揚記念館 学芸員）、今村信隆（北海道大学大学院文学研究院 准教授）、井上まどか（清泉女子大学 教授・ROLES プロジェクトメンバー）、立田 由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター・グローバルセキュリティ宗教分野 特任研究員・ROLES プロジェクトメンバー）	対面	49	33	東京大学先端科学技術センター創発戦略研究オープンラボ（ROLES）・日本学術振興会科研費基盤 B「戦時下の教会：ウクライナとその周辺国における宗教・国家・社会」	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」
2026/1/27	パネルディスカッション「混乱の時代の戦争と外交：日本と英国の選択肢」	Hiroshi Suzuki (Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan to the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland)、Michael Cox (Department of International Relations, London School of Eco	対面	-	30		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

		nomics)、Yuichi Hosoya(Keio University Tokyo, Director, Keio Center for Strategic)、Satoshi Ikeuchi(Professor of the Division of Religion and Global Security at the Research Center for Advanced Science and Technology (RCAST), University of Tokyo)、Tomohiko Taniguchi (University of Tsukuba and special adviser, Fujitsu Future Studies Center)、Sir Robin Niblett (Distinguished Fellow and former Director and Chief Executive, Chatham House)、Gillian Tett (Provost, King's College, University of Cambridge)					
2026/1/30	セミナー「Remembering Otherwise: Religion, Memory, and Trans mission」	平藤喜久子（國學院大學教授・ROLES）、キアラ・ギディーニ（ナポリ東洋大学教授）、伊達聖伸（東京大学大学院総合文化研究科教授）、ファビオ・ランベッリ（カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校教授）、ルカ・ミラシ（東北大学准教授）	対面	-	40	イタリア・ナポリ東洋大学	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2026/2/24	ウェビナー「日本にとってのウクライナ戦争」	待鳥聡史（京都大学大学院法学研究科 教授）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）、竹中治堅（政策研究大学院大学 教授）、東野篤子（筑波大学人文社会系 教授）	ZOOM	560	330		研究会「『西側』の論理の検証と再構築」

(5) 刊行物発信

【コメンタリー・刊行物】

作成日	カテゴリー	刊行物タイトル	実施研究会
2025/4/30	その他	ROLES NEWSLETTER No.5 (2025 年 4 月)	※3 事業共通
2025/5/31	その他	ROLES NEWSLETTER No.6 (2025 年 5 月)	※3 事業共通
2025/6/12	その他	Yoko IWAMA “Challenges Facing Japan and Need for Innovative Institution Building” (「第 10 回ウランバートル対話」スピーチ原稿)	研究会「安全保障協力体制の構想」
2025/7/1	その他	ROLES NEWSLETTER No.7 (2025 年 6 月)	※3 事業共通
2025/7/10	その他	山口航「価値外交の系譜における『自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)』——紐帯としての価値と普遍としての価値」浅野亮編『国際秩序のなかの「一带一路」——歴史、地域・国際関係、領域からの視座』法律文化社、2025 年	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/7/25	その他	石本凌也「核兵器をめぐる問題と日米：外交・安全保障研究の立場から」令和 7 年度函館人文学会研究大会	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/7/31	ROLES REPORT	ROLES REPORT No.44 石本凌也「ニクソンとトランプ比較試論：『帝王的大統領制』の復活？」	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

2025/7/31	その他	ROLES NEWSLETTER No.8 (2025 年 7 月)	※3 事業共通
2025/8/17	ROLES Commentary	ROLES Commentary No.53 Guibourg Delamotte “Why there is no Asian NATO or Pacific Alliance? Asian states don’t want it ”	研究会「『西側』の論理の検証と再構築」
2025/8/31	その他	ROLES NEWS LETTER No.9 (2025 年 8 月)	※3 事業共通
2025/10/13	その他	山口航「米国トランプ政権と日米関係」徳地秀士監修、平和・安全保障研究所編『アジアの安全保障 2025-2026 大国が揺るがす国際秩序と東アジアの安全保障』朝雲新聞社、2025 年	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/10/18	その他	山口航「国際政治における政治指導者——首脳会談に注目して」日本国際政治学会 2025 年度研究大会 部会 7 政治指導者と国際政治・対外政策	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2025/11/12	その他	Peter van der Veer 「Iconoclasm and Civil Strife in India」 (11 月 12 日モスタル大イベント Symposium “World Heritage, Religion and Memory” 講演原稿)	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2025/11/14	その他	Dat Nguyen 「Military Cemeteries and Temples: Buddhism and the Commemoration of the War Dead in Vietnam」 (11 月 14 日サラエボ大イベント Symposium “Negative Memory and	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗

		d Religion in Japan, Vietnam and the Western Balkans” 講演原稿)	教伝統と価値観]
2025/11/14	その他	Paride Stortini「Preserving Negative Memory: Buddhist Memorials for Japanese Sex Migrants to Southeast Asia」(11月14日サラエボ大イベント Symposium “Negative Memory and Religion in Japan, Vietnam and the Western Balkans” 講演原稿)	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」]
2025/11/14	その他	西村明「Memorial Complex for fallen soldiers and atomic bomb casualties: The Mediality of Boundary Temples」(11月14日サラエボ大イベント Symposium “Negative Memory and Religion in Japan, Vietnam and the Western Balkans” 講演原稿)	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」]
2025/11/14	その他	堀田主「ゴルバチョフの『欧州共通の家』構想：その限界と可能性」北海道スラブ研究会	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」]
2025/11/29	その他	公開シンポジウム「外交・安全保障シンクタンクはどこへいく？ ROLES の挑戦と日本の課題」 (1)	※3 事業共通
2025/11/29	その他	公開シンポジウム「外交・安全保障シンクタンクはどこへいく？ ROLES の挑戦と日本の課題」 (2)	※3 事業共通
2025/11/29	その他	公開シンポジウム「外交・安全保障シンクタンクはどこへいく？ ROLES の挑戦と日本の課題」 (3)	※3 事業共通
2025/12/20	その他	犬塚悠太「徳之島ユースキャンプ三年間の成果に関する報告」(徳之島国際ユースキャンプ第1回学生として、第2回学生サポ	研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット

		ートとして、第3回運営補佐として参加した立場からの報告原稿)	ト「戦争の記憶と宗教」
2025/12/20	その他	参加学生8名による第3回徳之島ユースキャンプ報告(徳之島国際ユースキャンプ第3回参加学生8名による報告原稿)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「戦争の記憶と宗教」
2025/12/31	ROLES REPORT	ROLES REPORT No.48 危機にある 国際刑事裁判所 (ICC) 国際政治の荒波にさらされて	研究会「紛争解決の理論と実践」
2026/1/9	その他	森原彩子「QWS ACADEMIA—新聞記者の視点から—登壇報告「北方領土元島民取材を通じた記憶の継承」」(第3回 QWS ACADEMIA 新聞記者登壇報告原稿)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」
2026/1/9	その他	長嶺睦「QWS ACADEMIA—学芸員の視点から—登壇報告「記憶継承の拠点となるミュージアム」」(第3回 QWS ACADEMIA 学芸員登壇報告原稿)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」
2026/1/9	その他	今村信隆「QWS ACADEMIA—ディスカッサントによるコメント「個人の記録を社会の記憶へ」」(第3回 QWS ACADEMIA ディスカッションパートの報告原稿)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」
2026/1/9	その他	井上まどか「戦争体験はいかに語り継がれるのか——QWS ACADEMIA トークイベントシリーズから考える文化表象・メディア	研究会「宗教と国際秩序」

		ア・社会の記憶」(QWS ACADEMIA (東京大学) シリーズ全3回のまとめ)	/サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」
2026/1/16	その他	Akira Nishimura, "New Developments in the Transperipheral Network: Implementation and Outlook of the Tokunoshima International Youth Camp" in South Pacific Studies (Special Issue: Amami Islands in Context: Interdisciplinary Insights and Approaches. Editors: Papoutsaki E., Loh-kazuhara E. and Kaneshiro I.) (徳之島国際ユースキャンプ全3回の研究論文)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「戦争の記憶と宗教」
2026/1/23	ROLES REPORT	ROLES REPORT No.54 堀田主「外交の個人化と脱制度化：ソ連／ロシアの政治的リーダーシップに関する予備的考察」	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2026/1/30	その他	伊達聖伸「出雲大社から戦後80年そして東日本大震災の記憶へ」(1月30日イタリア・ナポリ東洋大学共催企画 学術イベントにおける講演原稿)	研究会「宗教と国際秩序」 /サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」
2026/2/9	ROLES REPORT	ROLES REPORT No.55 中谷直司「原爆神話は解体されたのか：千々和泰明著『誰が日本を降伏させたか』(PHP新書、2025年)と5つの関連研究をめぐって」	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

2026/2/24	ROLES REPORT	ROLES REPORT No.56 Ryoya ISHIMOTO, "U.S. Support for Ukraine: Mid-Term Context and Implications for Trump 2.0,"	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」
2026/3/16	その他	緊急対談：ホルムズ海峡封鎖と日本・中東のエネルギー安全保障	研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」
2026/3/31	その他	山口航「第二次安倍晋三政権期の日米同盟——『対等性』と『対称性』の観点から」『防衛学研究』第74号（2026年3月刊行予定）	研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」

【動画配信】

なし

3-2 事業の実施状況・成果の定量的概要

【調査】

- ・ 情報収集・調査実施回数： 199 回

【会議】

- ・ 研究会の実施数： 17 回
- ・ シンポジウム／セミナー／ワークショップ等の主催・共催数： 27 回
- ・ 他団体主催のシンポジウム／セミナー／ワークショップ等への参加数： 2 回

【情報発信】

- ・ インタビューや報道発表の実施数： 189 回
- ・ 論文やコメンタリーの発出数： 60 回
- ・ 政策提言を含む報告書の発出数： 28 回
- ・ 学術誌の発行： 0 回

URL は 3-1（別紙）「イベントのメディア掲載」「ROLES ウェブサイトを通じた発信」に記載済み。

※ 主要なものにつき、審査委員や政府関係者などが閲覧できるよう URL（未発表のものは概要）を記載。また、上記以外の情報発信（メールマガジン配信、ウェビナー動画の発信など、独自に実施している情報発信）も該当があれば記載すること。

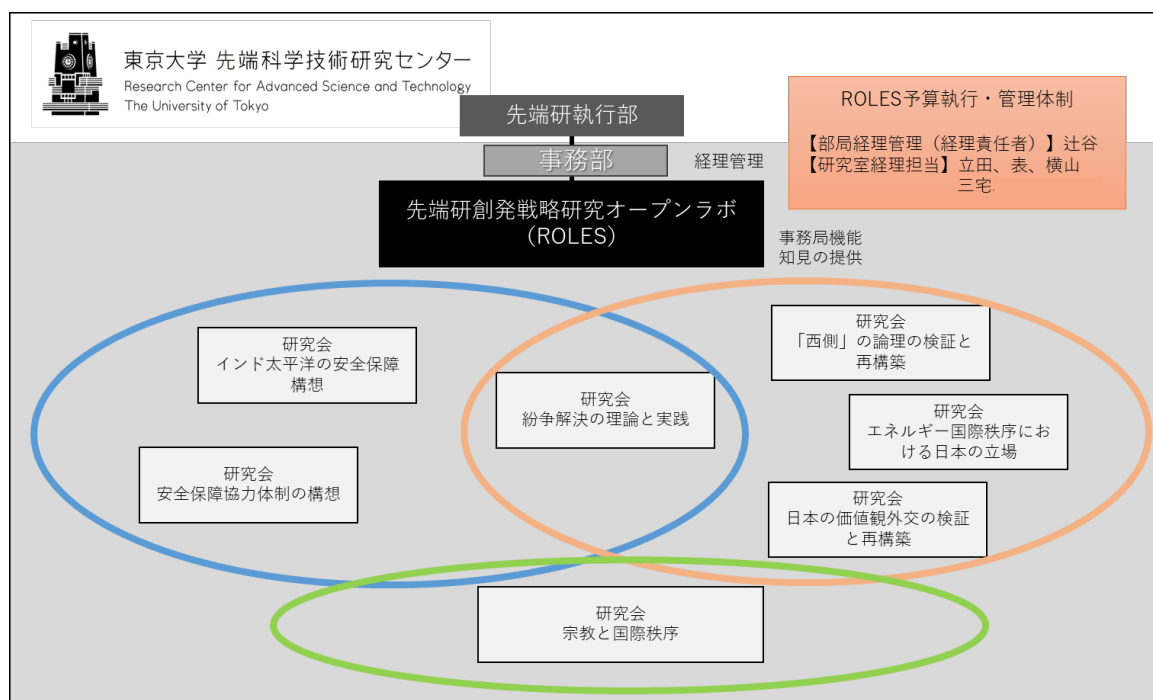
4-1 事業実施体制

- ・事業を実施するための人的体制、それぞれの役割分担等を記載のこと。
 - ・必要に応じ、それぞれの経験、能力等を示す資料を別添可。
 - ・若手、女性研究者、地方在住の研究者にカウントしている場合はそれを分かるようにすること。
- (※) 年齢・性別は評価の際の参考情報として記載するものであり、対外公表はしない。

1 組織図（自由書式）

※ 複数の分科会／研究会が設けられている場合は、それらが有機的に連携するためにどのような体制が取られているか明示すること。

※ 予算の執行・管理体制を明示すること。



2 メンバー詳細

事業総括、グループリーダー、研究担当、渉外担当、経理担当等の別	氏名	所属機関・部局・職	役割
事務局 (ROLES)			

事業総括	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	事業全体の総括(事業全体の企画・管理等・戦略企画・アウトリーチ担当)
副事業総括	国末 憲人	東京大学先端科学技術研究センター特任教授	事業全体の副総括
副事業総括	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	事業全体の副総括(研究企画担当)
副事業総括	中井 遼 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター教授	事業全体の副総括(研究企画担当)
副事業総括	伊藤 和歌子 (女性)	東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター	事業全体の副総括(プロジェクト管理担当)
事業総括補佐	立田 由紀恵 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(総務担当)
事業総括補佐	鍛冶 一郎 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(広報・データベース担当)
連絡調整	西山 美久 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任助教	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	狩野 希望 (若手・女性)	東京大学先端科学技術研究センター協力研究員	事業メンバーとの連絡・調整
連絡調整	小林 弘幸(若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	内田 州	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
経理管理	辻谷 宏人	東京大学・先端科学技術研究センター事務局・上席係長(外部資金担当)	経理事務の管理・監督
経理	表 真琴 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	経理に関わる実務
広報	金子 美和 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	アウトリーチ活動に関わる庶務
広報	田中 周 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	アウトリーチ活動に関わる実務

研究会「安全保障協力体制の構想」

研究会「安全保障協力体制の構想」

座長	岩間 陽子 (女性)	政策研究大学院大学教授	- 全体会合のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事	小林 弘幸 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	国際的な核不拡散・安全保障研究
研究担当	大庭 三枝 (女性)	神奈川大学法学部教授	アジアにおける地域主義に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	中村 真咲 (地方在住)	名古屋経済大学経営学部教授	モンゴルにおける憲法、法整備に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	LOTTAZ Pascal (若手・地方在住)	京都大学 白眉センター特定准教授	中立主義に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	桑原 尚子 (女性・地方在住)	岩手県立大学総合政策学部准教授	途上国における法整備の関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Umirdinov Alisher (地方在住)	名古屋経済大学法学部教授	中央アジア法、国際法に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	古賀 慶 (国外在住)	南洋工科大学准教授	アジアにおける安全保障についての知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	益尾 知佐子 (女性・地方在住)	九州大学教授	中国の外交・安全保障についての知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	堀田 主 (若手・地方在住)	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員	欧州とロシア・ソ連関係に関する知見の提供
研究会「『西側』の論理の検証と再構築」			
座長	細谷 雄一	慶應義塾大学法学部教授	- 分科会のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事	小林 弘幸 (若手)	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部非常勤講師	欧州の核抑止・核不拡散体制に関する調査研究
研究担当	合六 強 (若手)	二松學舎大学国際政治経済学部准教授	- 先進国の民主主義(欧州)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	岩間 陽子 (女性)	政策研究大学院大学教授	先進国の民主主義(欧州)に関する知

			見の提供、調査研究、発信等 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	鶴岡 路人	慶應義塾大学総合政策学部准教授	先進国の民主主義（欧州）に関する知見の提供、調査研究、発信等 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	東野 篤子 （女性・地方在住）	筑波大学人文社会系教授	- 先進国（欧州）の民主主義に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	ギブール・ドラモット （女性・国外在住）	フランス国立東洋言語文化学院教授	- 先進国の民主主義（欧州）に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	佐竹 知彦 （地方在住）	青山学院大学准教授	日豪関係、安全保障研究に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	森 聡	慶應義塾大学教授	アメリカ外交、安全保障研究に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	寺岡 亜由美 （若手・女性・国外在住）	コロンビア大学博士研究員	安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「宗教と国際秩序」			
座長	西村 明	東京大学大学院 人文社会系研究科教授	- 全体のとりまとめ - 各委員の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等

世話人	立田 由紀恵 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	- 権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「一神教の思想と世界」			
ユニット長	市川 裕	東京大学大学院 人文社会系研究科名誉教授	- ユダヤ教思想および歴史とその社会における役割に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	澤井 義次	天理大学名誉教授	ヒンドゥー教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	中西 悠喜	大阪大学外国語学部非常勤講師	イスラーム教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	志田 雅弘 (若手・地方在住)	静岡県立大学国際関係学部准教授	ユダヤ教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	宮川 創 (若手)	筑波大学准教授	古代宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	戸田 聡 (地方在住)	北海道大学大学院文学研究院教授	古代キリスト教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	納富 信留	東京大学大学院人文社会系研究科教授	古代ギリシア哲学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	下田 正弘	武蔵野大学ウェルビーイング学部教授	インド仏教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	古勝 隆一 (地方在住)	京都大学人文科学研究所教授	古代中国哲学に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	木村 風雅 (若手)	東京大学大学院総合文化 研究科特任助教	イスラーム法学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「日本の宗教伝統と価値観」			
ユニット長	平藤 喜久子 (女性)	國學院大學神道文化学部 教授	日本神道に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	星野 靖二	國學院大學研究開発推進 機構日本文化研究所教授	近代日本宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「戦争の記憶と宗教」			
ユニット長	西村 明	東京大学大学院 人文社 会系研究科教授	- 全体会合のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
研究担当	栗津 賢太	八洲学園大学生涯学習学 部講師	戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	李 貞善 (女性)	東京大学大学院人文社会 系研究科 次世代人文学 開発センター特任助教	朝鮮戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	清水 亮 (若手)	慶應義塾大学環境情報学 部専任講師	戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	富澤 かな (女性)	東京大学大学院人文社会 系研究科准教授	- インドにおける宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	浜井 和史	帝京大学教育学部教育文 化学科准教授	日本の戦後処理に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Dino Abazović (国外在住)	サラエボ大学教授	ボスニアのイスラーム教や内戦に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	Tâm Ngô (国外在住)	オランダ戦争文書研究所 戦争・ホロコースト・大量虐殺研究所上席研究員	欧州の戦争の記憶に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究会「宗教と国際秩序」/サブユニット「ウクライナ戦争に見る宗教と文学」			
ユニット長	井上 まどか (女性)	清泉女子大学文学部文化史学科准教授	- ロシアにおける宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	野中 進	埼玉大学人文社会科学部研究科教授	ロシアの戦争と文学に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	加藤 久子 (女性・地方在住)	國學院大學 神道文化学部准教授	東欧の戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	長谷川 章 (地方在住)	秋田大学教育文化学部教授	ロシアの戦争と映像作品に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	神原 ゆうこ (女性・地方在住)	北九州市立大学基盤教育センター教授	東欧の戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	高橋 沙奈美 (女性・地方在住)	九州大学大学院人間環境学研究院講師	ロシアとウクライナの宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	鴻野 わか葉 (女性)	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	ロシア文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	鳥山 祐介	東京大学大学院総合文化研究科准教授	ロシア文学における戦争と宗教に関する知見の提供、調査研究、発信等

研究担当	中井 杏奈 (若手・女性・国外在住)	東京外国語大学海外事情 研究所特別研究員・東京 外国語大学非常勤講師	東欧における戦争と 宗教に関する知見 の提供、調査研究、 発信等
研究担当	長縄 宣博 (地方在住)	北海道大学スラブ・ユーラ シア研究センター教授	ロシアとイスラム教 の観点からの戦争と 宗教に関する知見 の提供、調査研究、 発信等
研究担当	越野 剛	慶應義塾大学文学部教授	ロシア文学における 戦争と宗教に関する 知見の提供、調査 研究、発信等
研究担当	オルハ・ニコレンコ (国外在住)	ポルタワ国立教育大学教 授	ウクライナ文学にお ける戦争と宗教に関 する知見の提供、調 査研究、発信等
研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」			
座長	井上 正也	慶應義塾大学法学部教授	戦後日本外交の歴 史的展開の検証に 関する知見の提供、 研究会の取りまとめ
研究担当	高橋 和宏	法政大学法学部教授	戦後日本外交の経 済的展開の側面か らの歴史的検証
研究担当	前田 亮介 (若手・地方在住)	東京大学 大学院総合文化 研究科准教授	戦後日本における 学知の役割に関す る知見の提供
研究担当	白鳥 潤一郎 (若手)	放送大学教養学部准教授	戦後日本外交のエ ネルギー政策の展 開に関する歴史的 検証
研究担当	久場川 傳 (若手)	慶應義塾大学大学院法学 研究科修士課程	ポスト冷戦黎明期に おける日本外交の 展開に関する知見 の提供
研究担当	神元 究 (若手)	慶應義塾大学大学院 法 学研究科前期博士課程	
研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」/サブユニット「国際政治とリーダーシップ」			
ユニット長	山口 航 (若手)	帝京大学法学部専任講師	総合安全保障政策 と日本外交に関する 知見の提供

ユニット幹事	石本 凌也 (若手・地方在住)	北海道教育大学 教育学部(函館校)専任講師	核軍縮における日本外交の役割に関する知見の提供
研究担当	小南 有紀 (若手)	日本国際問題研究所 研究員	英米特殊関係に関する知見の提供
研究担当	堀田 主 (若手)	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	欧州とロシア・ソ連関係に関する知見の提供
研究担当	田口 季京 (若手・女性)	コンラート・アデナウアー財団東京事務所 日本プログラム プログラム・オフィサー／リサーチャー	国際政治におけるドイツの役割に関する知見の提供
研究担当	中川 倫梨子 (若手・女性)	慶應義塾大学大学院 法学研究科 後期博士課程	戦後日本における政治的アクターに関する知見の提供
研究担当	三代川 夏子 (若手・女性)	成蹊大学法学部助教	
研究会「エネルギー国際秩序における日本の立場」			
座長	岩瀬 昇	エネルギーアナリスト	- 権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
副座長	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	- 分科会のとりまとめ - 各分科会の調査研究に関する方向性のとりまとめ - 事業全体の内容に関する調査研究、発信等
幹事	豊田 耕平 (若手)	独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構調査部調査課／東京大学先端科学技術研究センター連携研究員	- 中東地域のエネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	小林 周 (若手)	日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員	権威主義(中東)に関する知見の提供、調査研究、発信等

			海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	榎本 量平	INPEX ソリューションズ	- エネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	高橋 雅英	公益財団法人中東調査会 主任研究員	- エネルギー問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究会「紛争解決の理論と実践」			
座長	篠田 英朗	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授	- 紛争問題に関する知見の提供、調査研究、発信等 - 海外での調査・シンポジウム参加の支援
研究担当	吉崎 知典	東京外国語大学大学院総合国際学研究院特任教授	欧州の安全保障に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Anna Mykolayivna Ischenko (若手・女性・国外在住)	ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部上級講師	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Iurii Perga (国外在住)	ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部大学院教授	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Olena Akimova Kasatnika (女性・国外在住)	ウクライナ国立工科大学 (KPI) 経営理論実践学科准教授	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Pavlo Ferdorchenko-Kutuyev (国外在住)	ウクライナ国立工科大学 (KPI) 社会学部学部長	紛争に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	Philip Shetler-Jones (国外在住)	RUSI シニア・リサーチ・フェロー	インド太平洋とNATOに関する知見の提供、調査研究、発信等

4－2 事業実施体制の定量的概要

研究者数合計 76 名

うち若手（※）研究者数 23 名（全体の 30 %）

うち女性研究者数 22 名（全体の 29 %）

うち地方在住の研究者数 28 名（全体の 37 %）